

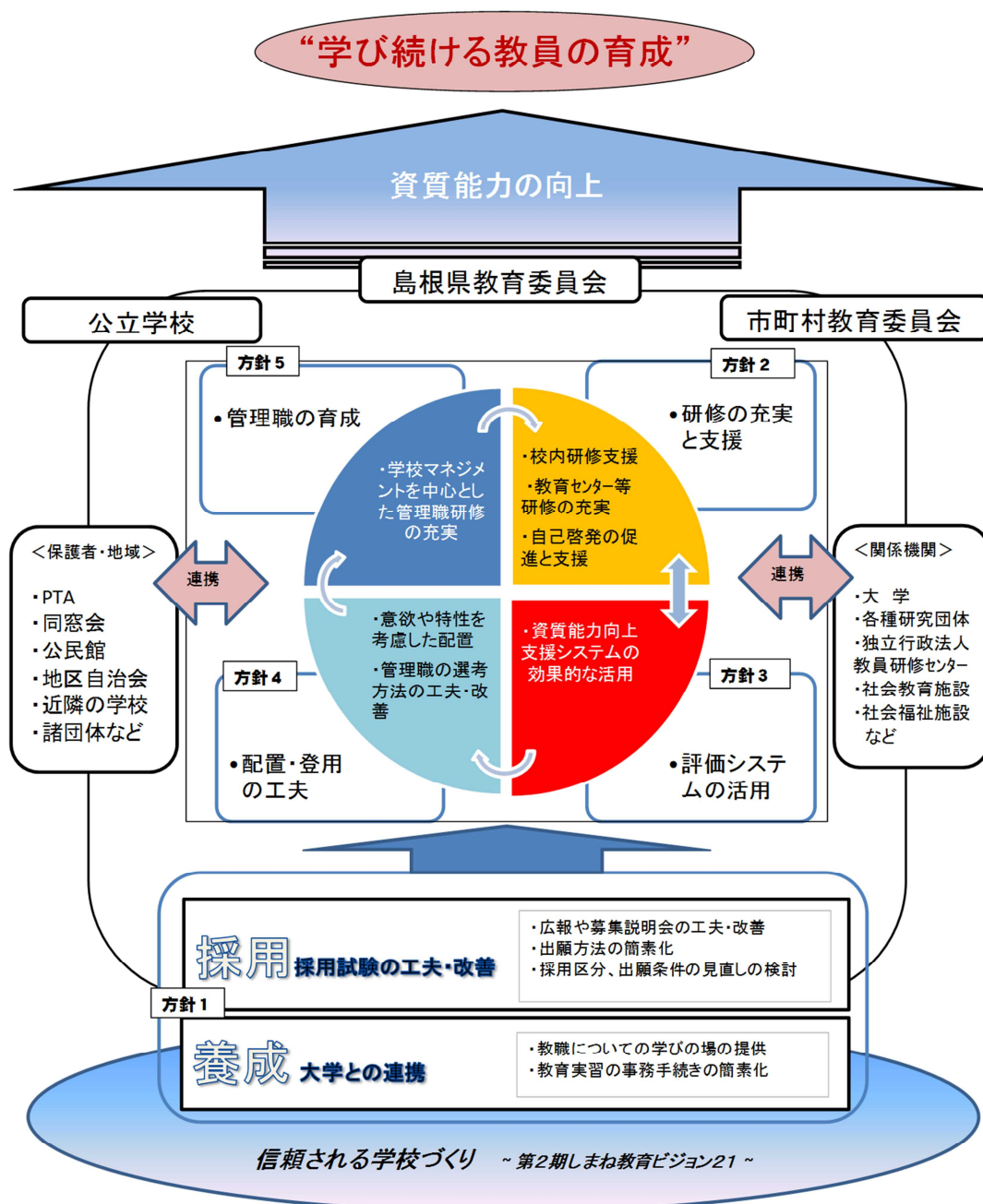
### Ⅲ 人材育成基本方針

人材育成のコンセプト（基本概念）を“学び続ける教員の育成”とし、次の5つの基本方針を設けました。

人材育成のコンセプト：“学び続ける教員の育成”

【人材育成基本方針】

方針1	優れた人材の確保	方針2	研修の充実と支援
方針3	評価システムの活用	方針4	適切な配置・登用
方針5	管理職の育成		




# 熊本県

別表1 キャリアステージに応じた必要な資質・能力

ステージ	目 標	必要な資質・能力			
		指導力等	マネジメント力	総合的人間力	使命感・倫理観
基礎期 (1～5年)	教育活動をはじめ職務遂行に必要な基礎的な知識や指導技術、技能を習得し、組織の一員として行動する実践的指導力を身に付ける。	学習指導・生徒指導等をはじめ職務の基礎的理解及び指導技術、技能の習得。	学級経営等の基礎的な知識や集団の指導力。	人権に関する理解と確かな人権感覚及び良好な対人関係を形成する能力。	教育公務員としての基本的な自覚・規範意識を持ち、若手職員として職責を遂行する謙虚な姿勢。
向上期 (6～10年)	基礎期の経験を活かし、学習指導や児童生徒指導等をはじめ職務遂行に必要な実践的・専門的な知識や技能を習得・活用し、基礎期の教職員へ助言・支援を行うなど学校運営の一翼を担う力を身に付ける。	学習指導・生徒指導等をはじめ職務に関する実践的・専門的な知識、技能を習得し活用する能力。	学級経営等の専門的な知識や効果的な集団の指導力。	人権に関する確かな理解と豊かな人権感覚及び状況に応じて的確な発言・行動を行う能力。	教育公務員としての高い自覚・規範意識と若手職員の手本となる職務遂行意識。
充実期 (11～16年)	向上期の経験を活かし、学習指導や児童生徒指導はもとより学年経営や校務分掌等をはじめ職務遂行に必要な高度な知識や技能を習得し、ミドルリーダーとして実践的指導力を発揮するなど、学校運営の一端を担う企画力を高める。	学習指導・生徒指導等をはじめ職務に関する高度な知識、技能を習得し、ミドルリーダーとして効果的に実践できる能力。	学級経営等の高度な知識や技能の習得と、ミドルリーダーとして学年を運営するための経営力・企画力。	人権に関する確かな見識とより豊かな人権感覚及びミドルリーダーとしての的確な状況判断能力とその判断に基づく行動力。	教育公務員としての高い自覚・規範意識とミドルリーダーとして後輩職員に適切な指導を行うなど、学校運営の一端を担おうとする意識。
発展期 (17～25年)	充実期の経験を活かし、学校運営、学習指導や児童生徒指導等をはじめ職務遂行に必要なより高度な専門的知識や技能を習得し、中核職員として全校的視野に立った実践的指導力を発揮するなど、広範な企画力・運営力・調整力を身につける。 管理職として必要な基礎的知識及び能力を習得する。	学習指導・生徒指導等をはじめ職務に関するより高度な知識や技能を習得し、中核職員として全校的視野に立った実践的指導力を学校内外へ発揮する能力。	学級経営等のより高度な知識や技能の習得と、中核職員として、全校的視野に立った広範な経営力・企画力。 指導者・管理職として必要な基礎的知識や能力。	深い教育的愛情と豊かな人権感覚及び中核職員として全校的視野に立った実践的指導力・各種調整能力。	教職員としての使命感と職責の重要性の高次元での自覚と中核職員として全校的視野に立った指導力を発揮しようとする意識。
円熟期 (26年～)	発展期の経験を活かし、学校運営、学習指導や児童生徒指導等をはじめ職務全般にわたる、さらに高度な知識や熟練した技能を習得し、学校内外において指導的な教職員や管理職としての力量を高める。 管理職としての豊かな教職経験を踏まえた相談や助言等、他の教職員の力量形成を支援・指導する能力を高める。	指導者・管理職としての豊富な経験と学習指導・生徒指導等のさらに高度な知識や熟練した技能を活かした教職員の力量形成を支援・指導する能力。	学校経営等の推進者としてリーダーシップを発揮し、学校内外の能力、資源を開発、活用し、求められるニーズに適應させる能力。	深い教育的愛情と豊かな人権感覚及び指導者・管理職として他の教職員への助言・援助など学校全体の指導的役割を果たすことのできる諸能力。	教職員としての崇高な使命と職責の重要性の深い自覚と指導者・管理職として学校目標の達成に全力を傾けようとする意識。

# 仙台市

## ～求められる教員の姿と力量～ 2015 年度版

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
教員としての基盤	教育公務員としての自覚と教職への誇りを持ち、謙虚な姿勢でその専門性の向上と社会人としての教養の修養に努める先生	教育者としての豊かな経験に裏打ちされた高い識見と熱き情熱を持ち、その専門性及び人間性の更なる磨きに努める先生	
実践的指導力 【授業づくり】 【学級づくり】 	<p style="text-align: center;"><u>仙台市が目指す OJT</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 多様で多面的な OJT</li> <li>□ 同僚性を育む OJT</li> <li>□ OffJT を生かす</li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: small;">※OffJT：校外研修</p>		<p>授業に関する専門性を一層向上させ、模範となる授業を自ら実践したり、校内の先生方の指導助言をしたり、しっかりと子どもに寄り添う先生</p> <p>授業に関する指導者としてのリーダーシップを発揮し、後進の育成に当たる先生</p>
学校運営力 【学校づくり】	校内の先生方の助言を受けながら、組織の一員として誠実に業務を遂行する先生	PDSI サイクルを活用し、自己の組織貢献力の向上に努めつつ、校内の先生方と連携しながら着実に業務を遂行する先生	校内の先生方の気持ちや立場を理解し、組織全体について幅広く見渡す心と知見を持って業務を遂行し、後進の育成に当たる先生

### 【教員としての基盤】

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 使命感・情熱	常に児童生徒のより良い成長を目指し、教職への誇りを持って教育活動に当たる。	常に児童生徒のより良い成長を目指して、教職への誇りと高潔な教育理念を持って教育活動に当たる。	
2 高い倫理観	教育公務員としての自覚を持ち、法令等を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行する。	教育公務員として法令を意識し遵守の気運をつくり、誠実かつ公正に職務を遂行する風土を醸成する。	
3 人間的な魅力	広い教養を備え、児童生徒や保護者、職員から信頼される人間的魅力を身に付ける。	豊かな経験に裏打ちされた高い識見を持ち、専門性・人間性を磨き、深い人間的魅力を身に付ける。	
4 社会性・識見	保護者・地域の声に耳を傾け、良好な関係を築き、的確な判断のもと協働的に関わる。	学校への社会の要請を自覚し、高い識見を持って家庭・地域との協働をリードする。	
5 向上心	広く研修に努め、より優れたものを目指し、他人の意見を謙虚に受け止め学び続ける。	常に教師としての在り方を求めながら自己研鑽に努め、教職員の範となる。	

以下 17 の力量構成要素は OJT の指標として活用できます！

【実践的指導力 授業づくり】

	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 カリキュラム デザイン  ・確かな学力 の育成 ・自分づくり 教育 ・防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 仙台版スタンダードカリキュラムを参考に児童生徒の実態に応じたカリキュラムを作成する。</li> <li>□ 標準学力検査等の結果から明らかになった児童生徒の実態に基づいた授業改善を行う。</li> <li>□ 日常の教育活動を自分づくり教育の視点で捉え、児童生徒に適切な指導を行う。</li> <li>□ 防災教育の趣旨を理解し、児童生徒に対して適切な指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 自校の特色を生かしたカリキュラムを作成する。</li> <li>□ 標準学力検査等の結果に基づいた自校の改善方策を作成・実践する。</li> <li>□ 小中学校9年間を見通した自分づくり教育の全体計画を作成・活用し、自分づくり教育を組織的に展開する。</li> <li>□ 仙台版防災教育年間指導計画を参考に自校に適した指導計画を作成し展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 自校や地域の特色に応じてカリキュラムを編成し適切に管理する。</li> <li>□ 自校の改善方策を組織的に展開し、年間指導計画の見直しや指導改善のために力を発揮する。</li> <li>□ 自分づくり教育の推進に向けて校内の諸課題を整理するとともに、課題解決に向けてリーダーシップを発揮する。</li> <li>□ 防災教育の質的向上や継続性を図るため、創意工夫のある指導計画を作成し展開する。</li> </ul>
2 授業構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学習指導要領解説を理解し、学びの系統を踏まえて単元を構想する。</li> <li>□ 目標や付けたい力に照らして児童生徒の実態を把握する。</li> <li>□ 教材研究の大切さを理解し、積極的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 小中学校9年間の学びの系統を踏まえて単元を構想する。</li> <li>□ 児童生徒の実態や地域の特色を生かした教材開発に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 児童生徒の実態を的確に把握し、個を生かした授業を構想する。</li> <li>□ 単元開発を行い、授業づくりに関する専門性を高める。</li> </ul>
3 授業実践・ 評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 基本的な指導技術を身に付ける。</li> <li>□ 指導と評価の一体化について理解し、評価規準を設定・計画する。</li> <li>□ 計画に従って児童生徒の学習状況を把握し、次時の指導に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学習習慣を確立させ、本時(単元)の目標に迫る授業を行う。</li> <li>□ 信頼性のある評価を目指し、児童生徒の意欲を喚起するよう指導を改善する。併せて、保護者に適切に説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 教職員に授業力向上の視点を持って働きかける。</li> <li>□ 指導と評価の改善につながるよう教職員に適切に助言を行う。</li> </ul>
4 授業研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 校内で進んで研究授業を行い他の教職員の指導助言を受け、授業を改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 得意分野において校内、市教研などの研究授業を積極的に行い、授業力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 教職員の経験や個性を考慮しながら助言を行い、教材研究やカリキュラム開発に取り組む雰囲気醸成する。</li> </ul>
5 情報管理 (ICT 活用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 紙媒体を含め個人情報取り扱いについて正しく理解する。</li> <li>□ 教材作成等において電子データを校外に持ち出す場合は公用の USB を使用し、個人情報を厳正・慎重に取り扱う。</li> <li>□ ICT を活用した授業実践及び情報モラルの指導ができるよう、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 個人情報漏えいした場合の影響や被害を想定した上で情報を適切に管理する。</li> <li>□ 授業の中で ICT を効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、児童生徒の学力向上につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 仙台市の「情報管理指針」に従って自校における情報セキュリティポリシーを理解し実践に生かす。</li> <li>□ 学習指導の効果を高める ICT 活用のために、ICT 活用と教員の指導力との関連を意識し、専門性の向上を目指して自己研鑽に努める。</li> </ul>



	初任～5年経験 (育成期)	6～15年経験 (向上期)	16年以上経験 (充実・発展期)
1 児童生徒理解	<input type="checkbox"/> 自分の受け持つ児童生徒にじっくり向き合い、児童生徒の正しい実態把握に努める。	<input type="checkbox"/> 自校の児童生徒の実態を把握し、個性や能力を伸ばす指導を行う。	<input type="checkbox"/> 自校の児童生徒を深く理解し、愛情を持って接することができる。 <input type="checkbox"/> 生徒指導についてリーダーシップを発揮し、後進の指導に当たる。
2 学級づくり 教室経営 組織経営	<input type="checkbox"/> 児童生徒理解に基づく学級経営を行い、より良い学びの環境をつくる。 <input type="checkbox"/> 清潔で安全な教室環境を整える。	<input type="checkbox"/> 児童生徒理解に基づく学級経営を推進し、児童生徒同士のコミュニケーションを促進し望ましい集団をつくる。 <input type="checkbox"/> 学年・学級経営方針を反映させ、児童生徒が意欲的に学習に取り組める教室環境を整える。	<input type="checkbox"/> 自らの経験を生かし、成果と課題の把握と改善計画の実践により、学級経営を充実させ、より望ましい集団をつくる。
3 生徒指導・ 教育相談	<input type="checkbox"/> 直面する課題と問題に気づき、先輩教員等に相談しながら課題を解決するとともに児童生徒、保護者への丁寧な対応を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発するサインを見逃すことなく予防的な対応を心掛ける。	<input type="checkbox"/> 直面する生徒指導上の課題や問題について、自校の教員と報告・連絡・相談を行いながら客観的な事実の把握に努める。	<input type="checkbox"/> 全体計画を作成したり、自校の生徒指導上の課題解決に向け、具体的な方策を提案したりする。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の悩みやストレスに対応できる校内相談体制に積極的に参画する。
4 危機管理・ 安全管理	<input type="checkbox"/> いじめ防止、心のケア、食物アレルギー対応など児童生徒に係る安全配慮義務について理解する。 <input type="checkbox"/> 事故発生に伴う適切な対応の在り方を理解する。	<input type="checkbox"/> 緊急事態発生への対応について日頃から組織的な動きをイメージし、事故が起こったときに迅速に対応する。	<input type="checkbox"/> 緊急事態発生への対応について日頃から組織的な動きをイメージし、事故への迅速かつ組織的な対応を行う。
5 配慮を要する 児童生徒の 理解と支援	<input type="checkbox"/> 学校生活を送る上で配慮を要する児童生徒の実態を把握し、安心して過ごせる学級づくりに努める。	<input type="checkbox"/> 特別支援教育コーディネーター及び関係機関と連携し積極的かつ計画的に支援を進める。	<input type="checkbox"/> 配慮を要する児童生徒に応じた適切な指導・支援ができるよう、校内体制の充実に向けてリーダーシップを取る。

	初任～5年経 験 (育成期)	6～15年経 験 (向上期)	16年以上経 験 (充実・発展期)
1 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>□対人関係をより円滑にするコミュニケーション能力の基礎を身に付ける。</li> <li>□児童生徒・保護者・地域との信頼関係を築くために、積極的に活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□相手の考えや意見、立場を尊重して受容するとともに、自分の立場(学年や校務分掌等)や組織を意識した建設的な考えや意見を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□経験を生かしたり、課題解決に必要な情報や技術を自ら求めたりすることで、物事に柔軟に対応できるようにする。</li> </ul>
2 職員間の円滑交流・意思の疎通	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「報告・連絡・相談」の機能とその方法について理解し、問題解決に向け積極的に職員間交流を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□職員間の情報共有の場を積極的に設け、後進の良き相談相手となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□管理職や他学年・他教科及び職種の異なる職員とのパイプ役としてつながりを密にした誠実な職員間交流を行う。</li> </ul>
3 OJT 推進・自己啓発・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>□指導・助言を受けながら、事務処理のプロセスを学ぶ。</li> <li>□心身の状態把握について理解し、生活リズムの安定と健康保持に努める。</li> <li>□教育活動や指導力向上に向けた情報交換を積極的に行い、2年目以降は初任の良きモデルとなるよう努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学年及び上司と連携しながら計画的かつ的確に連絡や折衝等に努める。</li> <li>□心身の健康保持のための方法等について理解を深め後進の相談役となる。</li> <li>□校内 OJT を積極的に進め、切磋琢磨できる雰囲気づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□効果的な PDSI サイクルの在り方や自己研鑽の在り方について、理解を深める。</li> <li>□自己の心身の状態把握の及び教職員の健康把握にも努め、職場の健康保持のための実践に努める。</li> <li>□同僚性を育む職場の雰囲気づくりを積極的に行い、学校全体を視野に入れた人材の育成に努める。</li> </ul>
4 危機管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>□校内における事故防止と安全対策をよく理解するとともに、自身の役割を理解し、迅速に対応できるよう備える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□事故防止と安全対策をよく理解した上で、場面や状況に応じて、学年等でシミュレーションを行うなど対応に備える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□万が一に備えた対応について、訓練シミュレーションを計画・実施するなどリーダーシップを発揮する。</li> </ul>
5 コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>□コンプライアンス携帯シートの内容を正しく理解し、日頃から児童生徒・保護者から不信や誤解を招くことがないように心掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□校内のコンプライアンス意識が高まるような実践を心掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□校内コンプライアンス委員会等を活用し、場面や状況に応じた対応について率先して研修を行う。</li> </ul>
6 協働型学校評価・教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>□協働型学校評価について理解し、PDSIを意識して取り組む。</li> <li>□校務分掌の業務内容を理解し、組織の一員として職務遂行に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□児童生徒のよりよい姿を実現するための改善活動について理解し、保護者や地域と連携して活動する。</li> <li>□校務分掌の遂行に努め、より効率的な職務遂行の手立ての工夫改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□積極的に職務の効率化を図り、組織全体を俯瞰した具体的な策を打ち出し、業務改善を推進する。</li> </ul> <p>※PDSI:計画立案・実施・評価と点検・改善の検討 Plan Do See Improvement</p>
7 地域連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>□積極的に地域行事などにも参加し、地域と学校の連携について認識を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学校支援地域本部を活用して、地域内の人や施設等の情報を的確に把握し、積極的に教育活動に反映させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□これまでの経験や実践を生かして、地域との信頼関係と連携を深め、地域とともに歩む学校づくりを推進する。</li> </ul>

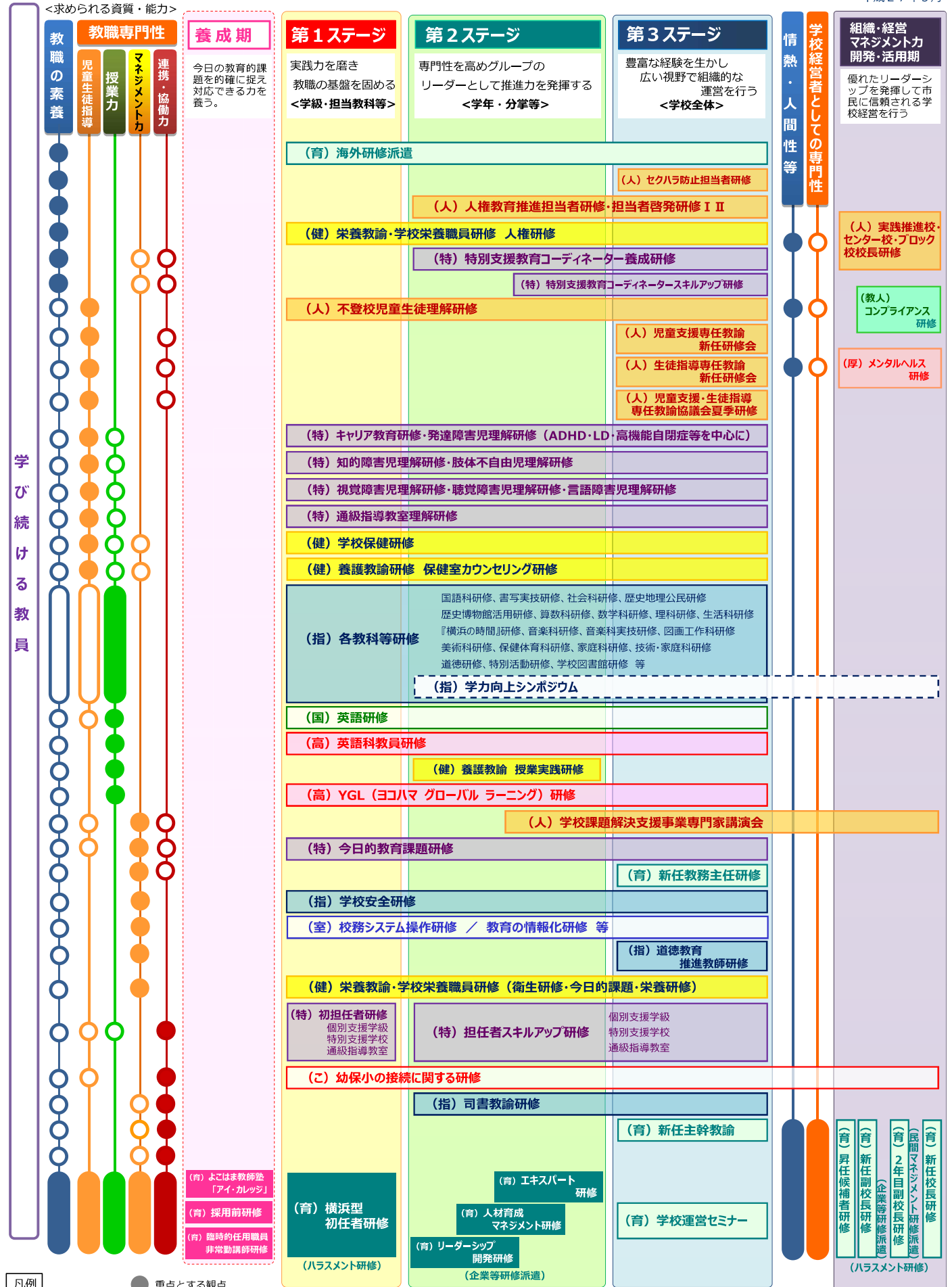
## 平成27年度「教員のキャリアステージ」における人材育成指標

平成22年2月策定  
平成27年3月改訂

ステージ		資質・能力				
		横浜市が求める 着任時の姿	第1ステージ 実践力を磨き 教職の基盤を固める 〈学級・担当教科等〉	第2ステージ 専門性を高め グループのリーダーと して推進力を発揮する 〈学年・分掌等〉	第3ステージ 豊富な経験を生かし 広い視野で組織的な 運営を行う 〈学校全体〉	
教職の素養	自己研鑽・探究力	・常に自己研鑽に努め、探究心をもって自主的に学び続ける。				
	情熱・教育的愛情	・横浜を愛し、教職への誇りと強い情熱、児童生徒への愛情をもつ。				
	使命感・責任感	・教育公務員として、自己の崇高な使命を深く自覚し、法令及び「横浜市公立学校教職員行動基準」を遵守する。				
	人間性・社会性	・豊かな人間性や広い視野・高い人権感覚をもち、児童生徒や教職員・保護者・地域等との信頼関係を構築する。				
	コミュニケーション	・周囲の状況や相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、積極的に助け合い支え合う。				
学び続ける教職専門性	児童生徒理解 児童生徒指導	児童生徒理解	・児童生徒理解の意義や重要性を理解し、一人ひとりに積極的に向き合おうとしている。	・一人ひとりの背景を意識して、児童生徒に向き合う。	・児童生徒を取り巻く環境を的確に捉え、一人ひとりの理解を図る。	・教職員相互で共通理解を図ることができるように、組織の環境を整える。
		児童生徒指導	・個や集団を指導するための手立てを理解し、実践しようとしている。	・保護者等の関係者や校内組織と連携しながら、個や場面に応じた指導を行う。	・関係機関等と連携して、学年全体の児童生徒指導を行う。	・様々な関係機関等と連携して環境を整え、適切な指導を推進する。
	実態把握と目標の明確化 (PLAN)	実態把握と目標の明確化 (PLAN)	・学習指導要領を理解し、児童生徒の実態把握の必要性を認識し、目標を明確にして立案しようとしている。	・学習指導要領等を理解し、児童生徒の実態を把握したうえで目標を明確にする。	・学校の特色を考慮し、実現した姿を想定して目標を明確にする。	・地域の特色も考慮した実態把握を行い、各教科の目標設定に生かすための発信を行う。
		指導と評価の計画立案 (PLAN)	・評価全般の意義及び、評価規程、指導・評価計画の意味を理解し、立案しようとしている。	・評価の目的を理解し、指導と評価の計画を立てる。	・目標を実現するために、効果的な評価の機会を設定し、指導と評価の計画を立てる。	・校内の指導と評価の計画を把握し、的確な支援を行う。
	授業	指導技術、指導形態の工夫 (PLAN)	・板書や発問等の基本的な指導技術を身に付け、実践しようとしている。	・「習得・活用・探究」の学習を重視し、学び合い等の場面を取り入れた授業の展開を計画する。	・身に付けた技術を生かし、思考力・判断力・表現力や意欲をさらに高める工夫をする。	・個や集団に応じた効果的な指導方法を工夫・選択し、発信を行う。
		授業中の指導と評価 (DO)	・「指導と評価の一体化」の意味を理解し、児童生徒の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	・集団の中の一人ひとりの学習状況を把握し、適切に指導・助言を行う。	・学習状況に応じて、適切に補充的・発展的な指導・助言を行う。	・学習状況を適切に評価し、状況に応じた効果的な指導方法で実践するとともに発信を行う。
	力	省察及び改善 (CHECK, ACTION)	・授業改善の意義や授業を分析し改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	・一人ひとりの学習状況を把握し、次時や次単元の指導に生かす。	・適切な授業評価を行い、継続し、自己の専門性向上に努める。	・自校の授業力向上に向けた取組の課題を明らかにし、年間指導計画等の改善を行う。
		研究の推進と研究体制構築	・研究会や研修会に積極的に参加する意義を理解し、実践しようとしている。	・校内研究会や他校の授業研究会に積極的に参加し、授業に生かす。	・校内研究会・校外研修会の企画・運営に携わり、授業力やマネジメント力の向上を図る。	・研修会で得た情報や自らの実践を広く情報発信して、自校の教育活動に生かす。
	マネジメント力	学級経営・学校経営ビジョンの構築	・学級担任の役割と職務内容及び、学校組織・運営や校務分掌を理解し、自分にできることを実践しようとしている。	・学校教育目標を理解し、学級経営や教科経営の方針を立て、一貫性のある指導を行う。	・組織運営や教科経営に積極的に関わり、学校教育目標の実現に向けて工夫改善を行う。	・学校運営について創造的なビジョンの構想やプランの構築に参画し、教育活動を活性化させる。
		人材育成(メンターチーム等の活動)	・学び続けることの意義を理解し、アドバイスに耳を傾け、自らを改善しようとしている。	・疑問点や悩みを相談したり、共有し合ったりしながら、自らの実践力を磨く。	・互いの課題や悩みに気づき、支え合える環境をつくるとともに、経験の浅い教職員を積極的に支援する。	・人材育成の重要性をふまえ、教職員の経験に応じた効果的な人材育成の環境をつくる。
		資源(人・もの・情報・時間・資金等)の活用	・学校内外の資源の種類やその活用目的・意義を理解し、実践しようとしている。	・身の回りの資源を積極的に教育活動に生かす。	・教育活動に効果的な資源を見極めて活用する。	・状況や課題にふさわしい活用方法を考え、教育活動全体の充実に図る。
		危機管理	・危機管理の重要性を理解し、危機を察知した場合に、素早い行動をとろうとしている。	・安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行う。	・危機を予測し連携して未然防止を図るとともに、早期発見、早期対応に努める。	・平常時の未然防止、抜本的改善、再発防止を組織的に推進する。
	連携・協働	同僚とチームでの対応	・組織の一員としての自分の役割を理解し、同僚と協力して対応しようとしている。	・組織の一員として教職員と積極的に関わり、求められている役割を理解して対応する。	・互いの良さを認め合い、それぞれの力を生かして対応する。	・組織の特性をふまえ、広い視野をもって対応力を高める。
		保護者や他の組織等との連携・協働	・保護者連携の重要性を理解し、保護者や地域と積極的に関わろうとしている。	・保護者、地域と積極的に関わり、連携・協働して対応する。	・保護者、地域、関係機関との関わりを深め、連携・協働して対応する。	・保護者、地域、関係機関との連携・協働のネットワークを形成する。

# 平成27年度「教員のキャリアステージ」に応じた教員研修体系

平成27年3月



- 凡例**
- (教人) 教職員人事課
  - (厚) 教職員厚生課
  - (健) 健康教育課
  - (指) 指導企画課
  - (高) 高校教育課
  - (こ) こども青少年局
  - 重点とする観点
  - (育) 教職員育成課
  - (室) 指導主事室
  - (人) 人権教育・児童生徒課
  - (国) 国際教育課
  - (特) 特別支援教育相談課

**OJT**

研究会・小中一貫教育推進ブロック・授業づくり講座

メンターチーム等、学年研、学年会、教科会、校内授業研究会、校内授業参観、教育課題校内研修会、校内での各種講演会 等

学校経営推進会議 校長会・副校長会 等